先進校に学ぶ
キャリア教育
の実践

CASE 2

兵庫・私立 百合学院高校（ゆりがくいんこうこう）

教科・行事・特別授業を結びつけ 隣人愛をもって社会に貢献できる力を育成

取材・文／藤崎雅子　撮影／髙橋貴絵

総合的な学習

コース別特別プログラム

インターンシップ

>>School Data
普通科／1964年創立
生徒数／292人（女子のみ）
進路状況（2007年度実績）／大学 60.3%・短大 20.5%・専門学校 6.0%・就職 4.8%・その他 8.4%
兵庫県尼崎市若王子2-18-2
TEL 06-6491-6298

Outline　キャリア教育の全体像

中堅教師中心の改革により総合的な学習やコース制を導入

兵庫県尼崎市にある百合学院高校は、キリスト教のカトリック精神に基づいて設立された私立の女子校だ。中学校、小学校、幼稚園を併設しており、高校では内部進学者と外部からの入学者とがともに学んでいる。

この約10年の間に、同校は大きな変革を遂げた。生徒の20年後を見据え、家庭、社会、世界で活躍できる女性を育てることを目標に教育内容が再構築されたのだ。一連の改革は、理事会や管理職教員からのトップダウンではなく、中堅教員7人で組織する改革推進委員会の活動がもとになっている。その委員長である大森順子先生は振り返る。

「少子化が進むなか、当時全員30代だった委員は、次代の学校運営を担っていく者として危機感を持っていました。学校の存続がかかっているという気持ちで、1年間、徹底的に議論。私たちは担任という立場から生徒の不満や要望をたくさん聞いていたので、生徒の顔を思い浮かべながらアイデアを出し合いました」

生徒の期待と課題に対応した改革案を次々と打ち出し、理事会とすり合わせながら改革を推進してきた。

同委員会が目指したのは、当時あえてそう呼ばなかったものの、今でいう「キャリア教育」そのものといえるだろう。代表的な実践の一つは、「百合学院的人間学のススメ」と名づけられた総合的な学習だ。一般的な総合的な学習の時間と少し違った形で進められ、生徒の進路や生き方に多大な影響を与えている（詳細▼Close up ①）。

もう一つはコース制の導入だ。背景には同校の生徒の多様性がある。学力が高く国公立大学を目指す生徒から、宝塚歌劇団が身近という立地も影響して芸術分野の夢をもつ生徒まで、希望進路は幅広い。一方で、目標がもてずに高校生活をすごす生徒も多数いる。そのような状況に合わせて、難関大学を目指す生徒のための「スカ

総合・選択委員会チーフ
内橋朋子先生

進路指導部長、改革推進委員長
大森順子先生

ラー」、いろいろな表現法を学びたい生徒のための「創造表現コース」、そして様々な方向から自分を見つめたい生徒のための「自己探究コース」の3コースを設置。コースごとにカリキュラムを設計し、独自の特別プログラムを組み込んだ(詳細▼Close up②③)。

こうした社会と生徒の実情に合わせるための改革は、次章以降で紹介するように、カトリックの理念に基づいた人間形成のより深い実践にも寄与している。教育理念と生きる力を関連させ、時代の進展に合わせて学校の活動全体を見直す。そんな同校の実践からは、カトリックの学校でなくても学ぶことが多そうだ。

Close up ①

総合的な学習

学年別にテーマを設定し各教科からアプローチ

同校の総合的な学習である「百合学院的人間学のススメ」は、「生命」「福祉」「国際理解」などをテーマに、中学・高校を通じて学年ごとに取り組む(図1)。そのねらいについて、総合・選択委員会チーフの内橋朋子先生が教えてくれた。

「カトリックの学校として、生徒は募金やボランティア活動を積極的に行ってきました。しかし、生徒の発言や小論文からは表面的で画一的な言葉しか聞かれず、その必要性を本当に理解して動いているのか疑問がありました。学院が目指す隣人愛をもって社会貢献する女性を育てるには、まず現状を多面的に知ることが必要です。そこで、現代社会を生きる上で大切なことについて深く掘り下げる取り組みを考えました」(内橋先生)

「人間学のススメ」の大きな特長は、時間割の中に「総合的な学習の時間」という枠を設けるのではなく、国語や英語などの各教科からテーマにアプローチする点だ(図2)。期間は2学期に限定

図1「百合学院的人間学のススメ」各学年のテーマ

- 中学1年「生命」
- 中学2年「環境」
- 中学3年「平和」
- 高校1年「福祉」
- 高校2年「国際理解」

図2 高2テーマ「国際理解」各教科の取り組み例

現代文	シエラレオネについて知る。ユニセフのホームページよりシエラレオネに関する記載を読み、まとめる
古文	「花月草紙」を読み、異文化を表面的に見て批判してはいけないという趣旨の文章を理解する
英語	OGATA SADAKO(緒方貞子) UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)
宗教	無人島ゲーム、東北タイを救う9つのプロジェクトについて
LHR	「貿易ゲーム」(開発教育協会)の活用、貧困の輪について、シエラレオネについて、ノーベル平和賞受賞ムハマド・ユヌス氏について、映画「BLOOD DIAMOND」についての記事を読む、詩の作成、絵本の作成、ビデオ「生命の短いダイヤモンドの国～黒柳徹子のシエラレオネ報告～」を観る、発表会の練習・準備
特別プロジェクト	大学の先生による講演会「国際協力のための具体的提案」

REPORT

■「百合学院的人間学のススメ」を終えた感想

「今回の『国際理解』というテーマで総合学習に取り組んで、世界中のあらゆる国の悲しい現実、明るい部分など、いろいろなことを学びました。(中略)シエラレオネの子どもたちは学びたくて仕方ないのです。それを知って、嫌だなと思いながら勉強している私達は、もっと学びたいという気持ちをもつようにならないと、何だか恥ずかしく情けない気持ちになりました。百合学院ではいつも10円募金をしてシエラレオネに送っていますが、この総合学習で学んだことをきっかけに、もっといろんな面から発展途上国に目を向け、自分には何ができるか、ということを考えていこうと思います」(2年生)

■クリスマスの集いに参加した感想

「私は、自分が今まで取り組んできたことを思い返しながら、今日の発表を見ていました。6年間を通して、私には、自然に人を思いやる気持ち、命に対する考え方が身についたと思います。世界の経済格差を知って、自分が将来やりたいことも、より明確にすることができました。総合学習で学んだことを、この先も忘れないで生活していこうと思いました」(3年生)

総合的な学習でシエラレオネの貧困について学んだことを絵本にまとめ、クリスマスの集いで発表。この取り組みは外務省が主催する第四回開発教育／国際理解教育コンクールで入選した

し、特別プロジェクトや校外学習などとも関連して集中的に学習。その成果は12月のクリスマスの集いの中で発表するという流れになっている。

学年テーマは立ち上げ時から変えていないが、サブテーマや実施内容は毎年、各学年団が話し合って企画している。当初は、該当テーマを扱いにくい教科も含めて全教科の参加を重視し、内容は各教科担当に委ねる部分が大きかった。現在は学年主導で企画し、内容に沿った教科を選んで実施するようにしたことで、一貫性のある取り組みになりテーマのねらいが生徒に伝わりやすくなったという。

実施例を見てみよう。ある年の2学年は「シエラレオネの貧困について考える」をサブテーマとした。同校では毎月10円募金をしてシエラレオネへ送金しているが、生徒はその国の窮状や募金の意味をよくわかっていなかったからだ。現代文や英語などの授業で関連する題材を扱い、LHRでは貿易ゲームやドキュメンタリービデオなど様々な教材を活用して、シエラレオネを中心とする海外の問題やそれに立ち向かう人の取り組みについて学習。2学期にある大学の先生による講演会も、テーマに沿う先生に依頼して関連づけた。まとめとして、わかった内容、感じたことをもとに絵本や詩を制作した。

また、「福祉」の活動例には、京都の寺院のバリアフリーマップの制作、福祉ビジネスを考えて大阪商業大学が主催する「ビジネスアイディア甲子園」に応募するなどがある。活動の舞台は校外にも及び、どれもユニークな内容だ。教師達はニュースや雑誌、各種イベントなどに常にアンテナを立て、学年が異なる教師間でも情報や知恵を提供し合い、生徒がすすんでやりたいと思える活動を必死に考えるのだという。「毎年ドキドキですよ」と言う大森先生は、どこか楽しそうにも見える。内橋先生は総合的な学習のチーフとして、教職員に向けてこう話しているという。「まず教師がおもしろいと思わなければ、生徒には伝わりません。教える学習ではありませんから、生徒と一緒に調べて発見して、私達も楽しみましょう」。

クリスマスの集いで発表 現代社会の課題と向き合う

「人間学のススメ」の学習成果は、中学・高校で毎年行うクリスマスの集いのなかで、学年ごとに10分程度の発表が行われる。その形式は様々だ。劇仕立てにしたり、ニュース風のレポートだったり、全員の感想コメントをビデオで流したり……。見ている人にもわかりやすく、生徒自身も楽しめるように工夫されている。

聖歌や聖劇を通じてキリストの生誕を祝ってきたクリスマスの集いで学習発表をすることに、当初は違和感を訴える声もあった。しかし、現代社会の課題に真剣に向き合おうとする生徒の発表の様子から、キリストの教えが現実社会と乖離することなく生徒に伝わっていることを、多くの教職員が感じるようになっていったという。生徒の進路への影響も大きい。

「『人間学のススメ』で経済が単なるお金の流れではなく人を助けることもできると知り、その点に惹かれて国際経済が学べる学部に進学した生徒。発展途上国で看護師として働きたいからと大学の看護学部に進学した生徒。アジアの国々のために何かしたいからとタイ語の学科を選んだ生徒……。多くの生徒が『あの学習のおかげ』と、社会貢献の気持ちをもってそれぞれの進路へ進んでいきました」（内橋先生）

Close up ② コース別特別プログラム

大学教授やプロを招き 多様な生き方に触れる機会に

改革によって生まれた3コースの特別プログラムの内容を見てみたい（図3）。「スカラー」では、国公立大学受験に対応した5教科7科目の充実のほか、大学の先生を招いて高大連携授業を行っている。「自己探究コース」では、インターンシップをはじめとする社会に触れる体験学習が充実している。「創造表現コース」では、表現力や創造力を伸ばしたいという要望や芸術分野への進路希望に対応し、演劇やダンスなどのプロを

講師に招く。

「希望進路に関連したコース別カリキュラムですが、どんな進路に進むとしても役立つ要素を含めたいと思っています。ですから大学の先生やその道のプロによる特別プログラムは、知識やスキルを身につけるためだけでなく、多様な生き方や考え方に触れて自分の将来に生かすことも大きなねらいです」(大森先生)

3コース共通の特別プログラムである「キャリアガイダンス(卒業生講話)」、「大学の先生による特別講座」も、同様に生徒の視野を広げる取り組みとなっている。

また、こうした特別プログラムや行事のあとは、できる限り感想文や発表を課している。「自分の考えをもち、それを伝えられる力をつけてほしい」(大森先生)という考えからだ。先輩の発表がモデルとなって年々生徒の表現力が向上し、教師が教えることは減ってきているという。

図3 主な特別プログラム

全体

「大学の先生による特別講座」
「キャリアガイダンス(卒業生講話)」

スカラー	自己探究コース	創造表現コース
「スカラー合宿」 高大連携授業「英語でプレゼンテーション」(1年)、「わたしたちの学びから、環境問題を考える」(2年)など	「幼稚園訪問」 「ボランティア福祉体験」 「企業探究プログラム」 「インターンシップ」 英語検定・秘書検定など各検定特別講座	「自己発見表現講座」 「日本舞踊講座」 「アナウンサー入門」 「声優入門」 「20世紀のファッション」 など3年間で25講座

Close up ③ インターンシップ

企業からの事前課題で実習効果を高める

自己探究コースの特別プログラムの目玉は、2学年の9月に行われるインターンシップだ。約20社のなかから希望する事業所で3日間仕事を体験するもので、「働くとは何か、企業がどんな成り立ちになっているか、将来働くにあたって高校時代どんな準備をすればよいかなどを知る機会にしたい」(大森先生)という。

同校のプログラムの特長は、事前・事後に社会のしくみや仕事内容を知る取り組みと、社会人としての態度・行動を身につける取り組みの両方に力を入れていることだ。

まず、社会や仕事を知る面では、7月に外部のプログラム※を利用した事前学習を行っている。これはいわば教室で体験できるインターンシップのプログラムで、参加企業からのミッション「友だちに価値ある時間を届けるゲームを提案せよ」「新しい生活スタイルを創るケータイサービスを

図4 インターンシップ先からの事前課題の例

インターンシップ先	事前課題
動物病院	飼い主さんが動物病院に何を求めているか、またその理由は何かを調べ(友人や知人で実際に動物を飼っている人に聞いてまとめてもよい)、それについて自分の考えを書きなさい【市販の400字詰め原稿用紙2枚程度で】
薬局	薬についての本 (雑誌でもよい)を読んで、感想を市販の400字詰め原稿用紙2枚程度で書きなさい
幼稚園	フェルト・布など柔らかいものを使って自分の名札を作りなさい。形は自由。園児に見えるような大きさで
ホテル	20代女性の顧客を増やすには、どのようなサービス、企画、イベントを行ったらよいか、レポート用紙2枚に書いて提出しなさい
旅行会社	日本国内を3泊4日旅行するプランを立てなさい。旅行会社の商品として「対象者・時刻・交通手段・観光地」も実際に調べて、旅行日程を作ること(飛行機も可)【レポート用紙2枚以上】
美容室	価格や店の外装・内装・規模は、その店の立っている場所やお客さんの層によって変わってきます。繁華街と住宅地では価格や店の外装・内装・規模がどのように違うか、レポートにまとめなさい【レポート用紙2枚以上】

図5 インターンシップ前マナー講座資料

こんなときどうする? Q&A

Q1. 朝出勤し、会社につきました。会社のドアを開けて、たくさんの方と出会います。どのように挨拶しますか?

Q2. みんなが仕事中に先にお昼ご飯をいただくことになりました。どのような言葉をかけるとよいでしょう?

Q3. 緊急の用事があるのに、担当の方が別の方と話をしていらっしゃいます。どのように言ったらいいのでしょう?

Q4. 仕事の最中にトイレに行きたくなりました。なんと声をかけてトイレに行きますか?

Q5. 与えられた仕事が終わり、何をしてよいかわからなくなりました。会社の人にどのように尋ねますか?

Q6. 仕事が終わって帰る時間になりました。何と言葉をかけて帰りますか?

Q7. 39度の熱が出て休むことになりました。事業所にどんなふうに連絡しますか?

Q8. 今から担当の先生のところへ行きます。職員室の入り方、退出の仕方、先生へのお願いの仕方はどのようにしますか?

インターンシップ後は一人ずつ、各事業所の業務内容や学んだことを新聞にまとめる

企画せよ」などにグループで取り組む。

その経験をもとにして、夏休み期間中、インターンシップ先から出される事前課題に、今度は個人で挑戦（図4）。「日本国内を3泊4日旅行するプランを立てなさい」（旅行会社）などの課題を通じて、事業や業界について情報収集し考察を深める。課題レポートは自己紹介文、抱負文とともに事業所に提出される。これらが潤滑油となり、生徒は受け入れ先で進路のアドバイスをもらうことも多いという。

「例えば、自信のなさから獣医ではなくトリマーを目指していた生徒は、動物病院で獣医やトリマーの方々から『最初から諦めるなんて』と励まされ、獣医という高い目標に挑戦しました」（大森先生）

社会人としての態度・行動面としては、数年前から事前のマナー指導に力を入れている。インターンシップ先での様々なシーンを想定して作成した「こんなときどうする？Q&A」をもとに、どういう受け答えをすべきかを話し合う（図5）。事業所ごとに割り振られる担当教師を相手にして、礼儀正しい挨拶や行動のトレーニングも行っている。

「ある年、受け入れ先から、きちんと返事や受け答えができない生徒が少なくないという報告を受け、すぐに改善策を講じました。一方的にマナーを教え込むのではなく、対応方法をまず生徒自身に考えさせたり、実際に体を動かすことで、定着を図っています」（大森先生）

インターンシップ終了後は、正式な書式に則った礼状と、B4用紙に新聞風にまとめた報告書を作成し、受け入れ事業所に届けている。また、同コースの後輩に対して報告会を行い、翌年の活動にも生かしている。

卒業後に進む道は、インターンシップ時の希望進路から変わるケースが少なくない。

「幼稚園を体験した生徒の半数、美容院を体験した生徒の多くが、進路希望を変更します。イメージだけで選んだ結果のミスマッチを、少しは防げているでしょうか」（大森先生）

インターンシップをはじめとする様々な活動の効果として、生徒が進路について考える時期が大幅に早まったと、大森先生らは感じている。

以前は3学年になって進路を考え始める生徒が一般的で、「もっと早くから将来を考えておけばよかった」という声がしばしば聞かれた。それが今、2学年の3学期にまだ進路が決められないでいる生徒に、友人が驚いて「あんたぐらいやで！決まってへんのは」と言う場面が見られるという。

※クエストエデュケーションプログラム 企業探究プログラム コーポレートアクセスコース（教育と探求社）：インターンシップを教室で体験できる。中高生を対象とした学習プログラム。実在の企業6社からインターンシップ先1社を決めて各企業の仕事内容や社会における役割などに触れたあと、各企業から出されたミッションに取り組む。情報収集、企画会議、プラン作成などを行い、最後にチームでプレゼンテーションを行う

REPORT

■インターンシップ参加の感想

「2日目・3日目の作業所での現場見学が一番心に残っています。一見、普通のオフィスビルですが、その奥にはどれだけの人々の知恵がつまっているかということを、お昼からの会議にも参加させてもらい、体験することができました。いろいろな考えや意見をもった人をまとめたり、性格がまったく違う人とでも接したり、コミュニケーションをとるということは、実は大変で、しかし、本当に大切なことだということを知ることができました」（建設会社訪問）

「この3日間で薬剤師に対するイメージが大きく変わりました。最初のイメージは、体力ではなく、精神だけの仕事だと思っていました。でも、重い薬の入った箱を運んだり、立ちっぱなしの仕事なので、体力的にもハードだとわかりました。薬剤師は人のことを考え、配付に間違いがないよう、最大限の工夫を生かしていました。患者さんに対する気配りや想いが伝わってきて、インターンシップ中は私も頑張ろうと思える要因の一つになりました。今回の体験を将来につなげられるように、今後にも生かしていきたいです」（薬局訪問）

≫百合学院高校に学ぶ実践ノウハウ

- ●現場や生徒を熟知する中堅教師が中心になって学校改革
- ●教育理念と生きる力を関連させ、学校の活動全体を見直す
- ●各教科の授業や校外学習のなかで、総合的な学習のテーマにアプローチ
- ●「企業探究プログラム」などの外部プログラムや各種コンテストを活用
- ●インターンシップ先から事前課題を出してもらい、生徒はその業界や仕事について調べたり考えたりしたうえで訪問する
- ●インターンシップ前にマナー指導を徹底
- ●総合的な学習やインターンシップなどの学習成果は、発表会を行って全学年で共有